
サボタージュ/サスサク

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サバタージユノサスサク

【Nコード】

N6609A

【作者名】

深海

【あらすじ】

現代、学パラです。女子からすごく人気があるサスケに憧れるサクラ。

移動教室のため、廊下を歩いていたサクラの目に黒髪の少年の姿が写る。

クラスは違うが、同じ学年のうちはサスケ。その容姿と頭脳で皆の憧れの存在であり、下級生だけではなく上級生からも人気があった。サクラは廊下の窓から、反対側の職員室前の廊下で教師と話をしているサスケを見ていた。

「はあ……かつこいいな 私なんか眼中にないんだろうな……」

ぶつぶつと呟き溜め息をつく、始業のチャイムが鳴り響く。気付くとサスケの姿はすでになく、サクラは遅れてしまっではいけないと慌てて走り出した。

「きゃっ！」

走り出した途端に誰かとぶつかり尻餅をついてしまうサクラ。

「大丈夫か？」

「あ……」

同じく尻餅をついているぶつかった相手を見たサクラの顔が真っ赤に染まる。

ぶつかったのはサスケだった。

サクラがま抜けにも口を開けて見ていると、サスケが視線を泳がせ下方を指差す。

「あんだ……見えてるぞ」

サスケが示した先には、膝を立てていたために丸見えになったサクラの下着。サクラがそれに気付き慌てて立ち上がると、サスケは落ちていたサクラの教科書やノートを拾い集めた。

「ほら……悪かったな」

サスケが差し出した教科書たちをサクラが受けとると、サスケは階段を上っていく。屋上への階段を。

「ど……どこ行くの？」

「サボリだよサボリ」

サクラが勇気を振り絞って声をかけると、口角を吊り上げるサスケ。そのまま屋上へと消えてしまい、屋上への階段と移動教室へ続く廊下を交互に見たサクラは、迷ったあげく階段を上っていった。

「あんだ授業はいいのか？」

フェンスに寄りかかり腰を下ろしていたサスケは、現れたサクラを驚いたように見る。

「わ、私も……一緒にサボらせて」

「へえ……成績優秀で真面目な春野がサボるなんて意外だな」

意外だと思ったのはサクラの方だ。サスケがサクラの名前を知っていたのだから。

「ピンクと黄色のチェック……」

「え？」

「あんたのパンツ」

「サ、サササスケ君！」

初めて授業をサボった。心臓がドキドキしてて、鼓動が自分にも聞こえてた。
でもね、ドキドキの半分はサスケ君のせい。遠かったあなたがこんなに近くにいるから。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6609a/>

サボタージュ/サスサク

2010年10月10日23時12分発行